

## 2014年度 学校自己評価

敬和学園高等学校

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価
教科指導 聖書	聖書の世界や考え方に触れる	聖書を読み、その内容を理解する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
		聖書に込められたメッセージを読み取る。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	自分と聖書を結びつけて考える	聖書のメッセージと自分がどのようにつながるのを見出すために、身の周りの様々な事象と聖書(キリスト教)の接点を考える。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
教科指導 国語	読解力をつけさせる	現代文の評論の要旨・小説文の主題を理解させる。	A 十分に理解させることができた B 普通に理解させることができた C あまり理解させることができなかった	A
		古典の内容を理解させる。	A 十分に理解させることができた B 普通に理解させることができた C あまり理解させることができなかった	B
	表現力をつけさせる	文章の要旨や主題をまとめる力を育てる。	A 十分に身につけさせることができた B 普通に身につけさせることができた C あまり身につけさせることができなかった	B
		自分の意見をまとめて、発表する力をつけさせる。	A 十分に身につけさせることができた B 普通に身につけさせることができた C あまり身につけさせることができなかった	B
教科指導 社会 地歴・公民	身の周りで起こっている問題を「リアル」に、そして、「多角的」に捉える目と感性を育てる	社会科特別授業などを行い、社会の現実の問題を担っている人に出会う。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
		授業で取り上げるテーマを工夫する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	興味関心を持った事柄に関して、整理し他者に理解できるように表現できる	ノートをきちんととることができる。レポートの提出を求める。	A 80%以上 B 60%以上80%未満 C 60%未満	B
		ディベートや3分間スピーチを行う。	A 適切であった B ほぼ適切であった C 改善の余地があった	A
	民主的な社会を形成できる人権意識と平和構築を实践しようとする自覚と資質を養う	平和運動に関わる人の実践した話を聞く社会問題に関わる番組を見る。	A 大いに成果をあげた B ある程度成果をあげた C あまり成果をあげられなかった	B
		公害問題などを取り上げ、共同の指導案を作り、授業を实践する。	A 平均点以上であった B 平均点レベルであった C 平均点以下であった	A
教科指導 数学	わかりやすい授業を実施する	指導内容の事前準備を大切にす。生徒の現状を把握し、授業進度に気を配る。1年生においては1クラスを基礎クラス、標準クラスの2展開授業とし理解が困難な生徒をサポートする。	A 実践できた B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった	A
	学力に応じた適切な指導を行う	個々の生徒の学力に応じた課題を工夫する。	A 実践できた B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった	A
	基礎学力を定着させる	小テストや反復練習などで計算力の向上をはかる。	A 実践できた B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった	B

教科指導 理科		授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせ、授業に反映させる。	A 実践できた B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった	B
	授業内容を充実させる	実験・観察を取り入れ、知的好奇心を引き出す。	A 実践できた B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった	A
		教員間で相互に授業を公開し資質向上を図る。	A 実践できた B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった	B
	学力に応じた適切な指導を行う	個々の生徒の学力に応じた課題を工夫する。	A 実践できた B ほぼ実践できた C あまり実践できなかった	B
	進路希望達成に必要な学力を養成する	希望者対象の勉強会を開いたり、個別指導を行い、進路実現を目指す。	A 前年度より丁寧に多くの生徒に実施 B 前年度並であった C 前年度より悪かった	B
教科指導 保健体育	集団行動を身につけさせる	授業開始と同時に整列、学校体操ができる状態にする。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
		集団の中で適切な言動がとれるようにする。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	各種運動を通して自ら進んで体力を高める	各運動に応じた補強運動を組み入れる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	自分自身で又は他者と協力して練習や試合ができる	陸上競技や球技、器械体操、武道の技術を向上させるとともに他者と協力して運動の楽しさや喜びを味わう。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	健康の大切さを認識して、健康なライフスタイルを考えることができる	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、生活行動や環境を改善していく資質や能力を培う。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
教科指導 芸術 (美術)	作品の完成と提出	生徒の現状にあった課題を提供する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	色々な表現技法を知る	各学年の技量と意識を見極めて、様々な表現技法を経験する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	芸術を愛する人間を育てる	自分が制作した作品に愛着をもつこと、人の作品を認めることができること。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
教科指導 芸術 (音楽)	学校行事との関連の中で音楽を活かす	校歌・合唱コンクール・卒業礼拝ハレルヤ合唱練習など、クラスや連合など協力して歌唱する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	様々な国民音楽に触れ、表現する。	様々な音楽を鑑賞し、個人の他、グループアンサンブルなどでも表現する。パソコンにてオリジナルな音楽を創作する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	音楽の基礎理論を学ぶ	個人指導を行う。理解に応じた進度にする。難解な内容でも興味の持てる内容にし、達成感を持たせる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	音楽を愛好する感性を養う	興味が持てるような教材選択と導入をよく考え、グループ演奏、クラス演奏、個人発表など様々な形での発表をする。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A

教科指導 英語	英語を得意とする生徒への対応(上級クラス)	英語の構造的役割を理解させる。英語を英語として理解させる。実用的英語を身につけさせる。	A 100以上取れたものが50パーセント以上 B 80～100取れたものが50パーセント以上 C 79点以下が50パーセント以上	A
	英語が得意でも不得意でもないものへの対応(中級クラス)	内容の全体的把握ができるようになる。	A 80%以上できた者 B 60%以上80%未満できたもの C 60%未満のもの	B
	英語学習に困難を覚えるものへの対応(基礎クラス)	英語文化に関心をもたせる。レベルにあった問題で自信をつける。	A 内容がほぼ理解できたもの B 半分理解できたもの C ほとんど理解できなかったもの。	B
	外部テストを利用し、英語の実用能力を養成する	英検を自分の自信に繋げるために、上級は2級、準2級の取得、中級は準2級、3級取得をめざす。基礎も3級、4級も取得めざす。	A 事前指導が十分で結果も満足のいくものであった B 事前指導は十分であったが結果に一部不満が残る C 事前指導が不十分であり結果にも一部不満が残る	A
教科指導 家庭	人生をみつめ、さまざまな分野から生活を営む力を養う	性別役割分業意識にとらわれず、自分自身のライフスタイルを考えさせる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
		実験、実習、疑似体験、調査などを通して、実践的・体験的に人と人とのつながりを意識しながら学ぶ。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
		生活を営むために必要な、衣食住・や資源や環境、家族や地域社会の人々と共に生きるために必要な、家族と社会の関係に関する知識を具体的に情報を収集し学ぶ。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
教科指導 情報	情報活用の実践力	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用する。必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、発信・伝達できる能力を育てる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	情報の科学的な理解	情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法を理解させる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B
	情報社会に参画する態度	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画する態度を育てる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
教科指導 労作	奉仕の精神を身につけさせる	働くことは、「傍が楽になること」「傍が苦になってはいけない」という呼びかけをし、どうしたら周りの人の役に立つことができるように育てる。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	メンバーシップを養う	クラス単位、小グループでの作業を通して、グループ内における自分の役割を見出し、認識する。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	自然に学ぶ	作物の栽培や季節ごとの作業(落ち葉はき、除草、除雪など)を通して自然の摂理を学ぶ。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	A
	正しい道具の使い方を学ぶ	正しく道具を使うことで、作業効率が上がったり、間違った使い方をすることで道具が破損したり作業効率落ちることを通して、正しい道具の使い方を学ぶ。	A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった	B